

Citation: Chongsomchai C, Lumbiganon P, Laopaiboon M. Prophylactic antibiotics for manual removal of retained placenta in vaginal birth. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2006, Issue 2. Art. No.: CD004904. DOI: 10.1002/14651858.CD004904.pub2.
CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 21 March 2011
Clib issue No.; N/U: 2011 Issue 6 ; Update

背景: 遺残胎盤は、分娩後出血を伴うため生命を脅かすおそれのある状態である。胎盤用手剥離では、子宮腔の細菌汚染の可能性が増加する。

目的: 抗菌薬の予防投与を受けた女性および未投与の女性を対象に、経膣分娩での胎盤用手剥離に対する抗菌薬使用の有効性と副作用を比較し、当該処置に対する抗菌薬の予防投与の適切なレジメンを同定すること。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Registerを検索した(2011年3月22日)。

選択基準: 経膣分娩における胎盤用手剥離後の子宮内膜炎を予防するための抗菌薬の予防投与を、プラセボまたは抗菌薬未投与と比較したすべてのランダム化比較試験(RCT)。

データ収集と分析: 適格な試験が同定された場合は、2名のレビューアが別々に非盲検で試験の質を評価し、データを抽出することとした。

主な結果: 選択基準に適合する研究は同定されなかった。

レビューアの結論: 経膣分娩における胎盤用手剥離後の子宮内膜炎を予防するための抗菌薬の予防投与に関する有効性を評価したランダム化比較試験はない。

(監訳 江藤 宏美)
翻訳公開日: 2011年11月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改訂版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。